

学校関係者評価委員会 議事録

学校法人国際共立学園
 学校関係者評価委員会
 委員長 阿部 浩
 議事録作成者 福島

会議名	学校関係者評価委員会 定例会議
開催日時	令和 8 年 2 月 13 日 18:00~19:15
場所	新館 3 階 大会議室
出席者	<p>【委員】 阿部 浩(教育機関)、大澤正彦(教育機関)、竹島 由紀恵(教育機関)、文道 優妃(教育機関)オンライン参加、遠藤 友子(業界)、二本木 修(業界、卒業生、保護者) 欠席：富岡 啓夫(業界)、篠崎 沙織(業界、卒業生)</p> <p>【教職員】 五十嵐 久乃、工藤 佑輝、高橋 淳実、池田 昌央、嶺 雄太、境田 三友紀 岡田 真太郎、福島 三奈子(事務局)</p>
配布資料	前回議事録、ひぐらし(学園報)
5 月に開催した際に課題として挙げた点に対し本校の今年度の取り組みを説明し、委員より意見をもらった。4 月から学校教育法が改正になるため自己点検評価の変更点等の説明を行った。	

校長	<p>1 月に LA 研修があり、ビジネス美容科・BA 科の学生の希望者が参加した。現在ヨーロッパ研修に理容科・美容科の学生が参加している。LA 研修では昨年 9 月に連携協定を締結したフラートンカレッジでの研修やディズニープログラムを行った。</p> <p>ビジネス美容科が今年度の卒業生をもって廃科、募集停止となる。R8 年度より BA 科でエステ希望者を受け入れるコースを作り数名の希望者がいる。今後もエステ希望者を受け入れられる体制を作っていく。</p> <p>国家試験実技が終わり、学科試験に向けて気持ちを切り替えて臨んでいる。</p>
阿部委員長	<p>現在高等学校で入試の準備が行われており倍率や傾向も分かってきた。今後、教育をどのようにおこなっていくか模索している。外部の私たちと学校の目線を合わせる会にするため活発な意見交換をしていきたい。</p>
嶺	<p>【学校教育法の改正について】 ※投影資料使用 令和 8 年度より大学同様に基準を単位数に定めることができる。 31 単位の修得が必要となり、自己点検自己評価が義務になり、外部評価が努力義務になる。自己点検自己評価の基準が 10 項目から 6 項目になり内容も変更になる部分がある。令和 12 年度まで第三者評価又は学校関係者評価を受けることにより認定制度を受けることができる。</p> <p>【学外委員】 質問事項なし</p>

<p>資格試験報告</p>	<p>【ビジネス美容科：境田】 ビジネス美容科2年生が日本エステティック協会アジェステ上級エステティシャン資格受験。12月初旬に筆記試験、2月初旬に実技試験。全員合格。</p> <p>【美容科：岡田】 2月1日から4日間実技試験。2年生全員受験。仕上がりは確認しているが衛生面で何か不安要素ありと学生より報告がある。学科試験に向けてようやく熱が入ってきたので模擬試験の点数があがり自信がついてきていると感じている。</p> <p>【理容科：池田】 昨年度実技は100%合格できたが筆記で落ちてしまう学生がいた。今年度は6月頃より国家試験のヘアスタイルに取り組み、外部講師を招き展示授業を行い、コンテストに全員出場するなどの早期取り組みをおこなった。早期に取り組みをおこなったことにより得たものもあったがモチベーションの維持に課題があり、学生が自主的に学習していくアプローチの方法に課題を感じている。</p> <p>【学外委員】 小さな成功大変を増やし学ぶ楽しさを与えるように工夫している。</p> <p>【学外委員】 クラス全員で合格する意識をクラス全員に持たせるようにしている。</p> <p>【学外委員】 スタッフが模擬問題と解答を作成しスタッフ間で作成した模擬を行うことによって試験に臨む姿勢を醸成している。</p> <p>【学外委員】 サロンでも現在国家試験を受験するスタッフがいるが反復練習、問題をとくことによって合格を目指している。</p> <p>【学外委員】 失敗することが怖く、これくらいでよいと留まってしまう生徒がいる。失敗してもよいという雰囲気を作り続けていくようにしている。</p>
<p>高橋淳</p>	<p>【募集活動について】 ※投影資料使用 今年度は、昨年度出願数比微増。理容科女子学生が増加した。また、産学希望者が理容美容共に増えた。産学の説明会を早期から行ったことが増加の要因のひとつにあげられる。課題点として夕方の体験入学が減少し、イベント参加率も申込をしても参加しない方が昨年より増えており参加してもらえる案内や内容を考える必要がある。内容のマンネリ化も課題として挙がっている。</p> <p>高校訪問も行っているが進路指導の先生方の世代交代も進んでおり、新たに信頼関係の構築を行っていかなければならない。</p> <p>【学外委員】 高校では就職氷河期の40代の進路指導教員が少なく、30代前半から20代の教員数が増えたため、教員同士の情報交換や指導の仕方も変化してきていると感じている。</p>
	<p>議題終了後、より良い学校運営と学生の排出のため約15分間意見交換をおこなった。</p>
<p>次回開催予定</p>	<p>2026年5月15日（金）18：00～</p>